

専門の小委員会設置

国際将来加速器委 実現に向け課題検討



東北誘致

【東京支社】世界の素粒子物理学研究所のトップらでつくる国際将来加速器委員会（ICFA）のヨアヒム・ムニツク委員長ら日米欧の主要メンバーは26日、東京都内で記者会見し、国際リニアコライダー（ILC）の実現を目指して専門の小委員会を設置すると発表した。岩手、宮城両県にまたがる北上山地

（北上高地）での建設を想定し、技術的な課題を検討していく。世界の有力研究所の新たな連携の動きが、日本の誘致決断や国際協力の構築に弾みを付けるかも注目される。【4氏の発言要旨2面】

会見はICFAの総会に合わせて開かれ、ムニツク氏（ドイツ電子シンクロトロン、DESY）と欧州合同原子核研究所（スイス、CERN）のファビオラ・ジャンソッティ所長、米フェルミ国立加速器研究所のナイジェル・ロッキヤー所長、高エ

ネルギー加速器研究機構（茨城県つくば市、KEK）の山内正則機構長の4人が出席した。ムニツク氏は「ICFAは日米欧だけでなくロシアや中国、韓国なども参加し、彼らも学術的な理由でILCを支援している。われわれと同じ熱い気持ちで賛成している」と述べ、実現に意欲を示した。その上で「ILCが実現するかは技術や学術面より、政治的な課題だ。日本は誘致したいと表明してほしい。

それがあれば、あまり遠くない将来の実現の一步になる」と積極姿勢を促した。北上山地の地盤に関しては「とてもいい候補地だ。花崗岩のとても安定した地盤。要求される精密性の確保は可能だ」と高く評価した。今年1月、CERN所長に就任したジャンソッティ氏は「ビッグス粒子やその他の粒子を精密に調べることができる。日本はホスト国として主要な役割を担ってもらうことにな」と説明。ロッキヤー氏もILCの必要性を強調した。小委員会は4氏をメンバーとし、今後定期的に協議を重ねていく。山内氏は「予算だ

けでなく、多くの研究者や企業の参加も必要だ。（技術的な）リスクなども検討しなければならない」と課題意識を述べた。



国際将来加速器委員会にILC実現に向けた小委員会を設置すると記者会見で発表する日米欧の主要メンバー＝26日、東京都内